

「バス置き去り事件」を受け避難訓練を実施！～一人ひとりがホイッスルを！～〔12/16〕



昨年9月、静岡県牧之原市にある認定こども園の通園バスの車内に3歳女児が置き去りにされ、熱中症が原因で死亡した事件が大きな問題になりました。一昨年にも福岡県の保育園で同様の事故が起きています。

本園でもこれらの事故を受け、「バス置き去り事故が2度と起きないように」、今までの「園バス送迎マニュアル」を見直すとともに、園児自身への訓練も必要であると考え、12月16日(金)に「避難訓練(バス置き去り対策)」を実施しました。

10時に園舎南側広場(通園バスの乗降場所)に全園児が集まりました。初めに教頭先生から「バスの中に1人ぼっちになってしまった事件が起きたことや、そのような場合どのようにしたらいいのかなどの訓練を今日はします」などのお話がありました。次に美奈先生から「バスの中に置いていかれてた時は、先生の座っている席の後ろに取り付けてある「ホイッスルの赤いシールの貼ってある部分」を押し、先生やご近所の方に気づいてもらうための訓練をします」と、実際にホイッスルを持って訓練の説明がありました。



いよいよ訓練の始まりです。初めは年長組からです。各クラス1台ずつバスに乗り、バスの中でも危険がないように先生が1人付き、1人ずつ実際にホイッスルのスイッチを押しました。「ピー！ピー！」という大きな音がバスの外にも聞こえます。実際に押した子ども達がビックリするくらい大きな音です。先生のOKが出たらバスから降りて、次の子へバトンタッチします。

年長組の後、年中組⇒年少組と全員がホイッスルを鳴らす訓練をしました。



最後に園長先生が実際にホイッスルを見せながら「もしバスの中に閉じ込められてしまった時は、今日のように赤い丸のシールが貼ってある部分を押し、先生方や周りの人に「ここにいるよ」と教えてもらいましょう。今日の練習の様子を見て、みなさんがしっかりとホイッスルを鳴らすことができたので先生はびっくりしました。本当によくできました」と、お褒めの言葉をいただきました。現実の場面で危機的な状況で力を発揮するためには、「訓練とシミュレーションが大切」だと言われています。

理由として、「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、やったことは身につく」からだそうです。訓練はとても大切なのですね。

園バスへの園児置き去りがなぜ起きてしまうのか、次のような点が問題であると考えています。

- 1: 「乗降車時の人数確認」
- 2: 「複数人での車内点検」
- 3: 「最終的な出欠情報の確認」
- 4: 「登園するはずの園児がない場合の保護者への連絡」

本園職員が「実際に起こりえる問題」であるという共通認識を持って、これからも対応していきたいと考えています。